

機密

文書課長



大正三年四月 壹日 接受

5.8
浄書
原
浄

大正三年三月三十一日起
同 年 四月一日附

別紙

第一

主

312

政務課第四〇號

主
書
目
録

大正三年四月

政務課

内務大臣宛

牧野大臣

台湾ニ於ケル我施設ニ関スル誹謗的
新支記事ノ件

外務省

台湾ニ於ケル我施設ニ関スル誹謗的記
事支那新支紙上ニ掲載セラレタル趣ヲ
以テ今般左支山座公使ヨリ別紙写ノ
通報告致ス。其ノ中参考迄右紙ニ及
テ送附ス。余ハ査閲相成度尙同信
末段ニ右記事ノ出所ト疑ハルハ王環
芳ハ昨年末山座公使ニ台湾總督府
宛紹介状ヲ付シテ渡台シタルニ拘ラス

MT

11212

00813

MT

11212

00812

上陸、際台湾官憲ノ為引留メラレ
タル由相見ニ美果ニテ右様ノ事實
有ニ美式事真相ヲ取調、上寺回
報相成度生段申進美也

追、別紙、支那新字加抜、用
清、上、返付相成云々、
山座公使来公第、七、二、辨、写、并、
新字記事、加、其、儘、添、附、
下

外務省

MT

11212 00814

REEL No. 1-0060

大正三年四月六日

片

奉天滿鐵公所



第四号

北京出張員報告要旨

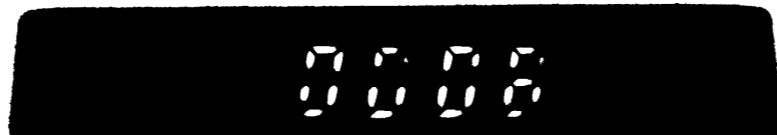
○近來ノ排日の傾向

MT

11212

00815

REEL No. 1-0060



近來ノ排日の傾向

日支國交ノ現情ハ昨今意外ニ險惡ニシテ支那人上下共ニ排日の氣風ヲ增長シツ、アルハ遺憾ニ堪ヘズ、其原因ヲ訪ヌレバ第二次革命ニ際シ日本ノ行動ニ嫌馬タルト昌黎事件ニ對スル惡感情及ビ白狼匪ノ一團ニ日人ノ參加シ居ル等ノ事之レガ主因ナリト説クモノアリ、元來自己アルヲ知リテ國家アルヲ思ハザル彼等ニ取リテハ寧ろ此等ノ事件ニ籍口シテ却テ歐米諸邦ノ入智慧ヲ仮リ我ガ日本ヲ制セントスル陰險ナル惡策ヲ施サントスルナルベシ、支那人ノ口ニスル同文同種隣邦親交ナドノ常語ハ殆ンド無意味ニシテ決シテ口端伶俐ナル彼等ノ謾言ヲ信賴ス可ラザルナリ、近

來頻リニ歐米諸國ノ資力ニ由リテ諸種ノ事業ヲ興サントスル傾向アルト同時ニ歐米各國ガ此機ヲ利シ支那ノ富源ヲ探查シ有益ナル利權ヲ奪取セントセリ、彼令、鐵道布設、鑛山採掘、若リハ港灣修築其他開放地市街新築水道電氣事業等、或ハ借款的、或ハ合辦的ノ意味ヲ含ミ、續々顯出スル模様ナルガ現時口耳相届シテ喧傳スルモノハ英米トラスト煙草會社對支那煙草專賣的官業問題ナリ、風聞ニ由レバ該製造販賣ノ代理業ヲ英米トラストニ於テ一手ニ引受ケントシツ、アリト、果シテ如何ナル形式ニ契約スルヤハ未ダ判明セサルモ近々、英京倫敦ヨリ一名ノ重役入京スベシトノ事ナレハ事實進行中ナリト推測スルニ難ラズ、彼ノ石

MT

11212

00817

MT

11212

00816

油鑛借款問題ノ如キ、悉ク熊希齡ノ計圖心算ニシテ彼レハ平素頗ル日本ニ好意的意思アルヲ飾リ居リシニ及シ却テ裏切リヲナスガ如キ不誠實ノ態度ハ將來吾人ノ最モ注意ヲ惹ル可ラザル也、殊ニ近リ開放セル東蒙地方ノ情況ヲ視察スベク我ガ邦人が旅行ヲ希望シ現ニ護照ヲ要求スルヤ支那政府ハ護照發行ニ躊躇スルモノ、如ク一度ビ護照ヲ出スモ護照ハ萬能ニアラザレバ更ニ熱河都統ノ護照ヲ得テ旅行セシムルコト、ナサンナドノ意志ヲ外交團ニ提議シ來レルナド、之レ皆ナ日本ニ對スル面白カラザル感情ニ源由ス、而カモ熱河都統姜桂題ヘハ該地方不穩ニシテ護照發行不可能ナリト答フベク内意ヲ含メ居レリト云フ、

斯ノ如ク日支國交ノ不良ナルニ及シ歐米諸邦ノ對清策ハ益好況ニ何ハントス宜シク識者ノ考慮ヲ求メザル可ラズ、

(終り)

MT

11212

00819

MT

11212

00818

附屬書類添附

祕受2784號

通商局

印田



大正三年四月拾六日接獲

警務局長

第二課

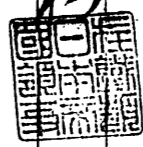
別紙添附

機密第一卷 參號

大正三年四月九日

在鐵嶺

領事 森田寬基



外務大臣男爵牧野伸顯殿

大正三年四月九日附奉天總領

事宛各領機密第七號寫送付

朝陽鎮在位邦人近況ニ関スル件

在鐵嶺日本帝國領事館

MT

11212

00820

REEL No. 1-0060

寫

大正三年四月九日

在鐵嶺

領事森田寬藏

在奉天

總領事落合謙太郎殿

朝陽鎮在住邦人近況

關スル件

客月二十三日附機密各領第六號拙

信ヲ以テ支那官憲ノ排日の行動ニ關

シ申進置候處本日在朝陽鎮渡邊

在鐵嶺日本帝國領事館

信孝未信ニ依レバ其後支那官憲態

度ハ毫モ改マルノ模様無之借家ノ家

主ヲ拘禁シ漸次壓迫ヲ加ヘ凡テノ邦

人ヲシテ退去ノ止ムナキニ至ラシメトシ客

月二十六日再ビ別紙ノ通掲示セシ趣ニ

有之候間爲何等御参考御査閱相

成度此段申進候 敬具

追而大疙痘駐在當館巡查名ヲ本

件調査ノ爲ノ同地ノ派遣致置候

本信寫送附先

外務大臣
北京公使

MT

11212 00822

MT

11212 00821

寫

海龍縣行政公署布告政字第一號

照得民間租給韓國僑民房地當時雖以有押租與立合同租收並退租地時韓人即藉端索詐稍不遂意往往妄啟訟端殊為何事受此拖累然其中皆因貪圖一時之利不計日後之害所致除通令正預警隨時告知查禁外合行布告園境人民須知海龍並非商埠外外國人不得營業居住載在約章並查奉通令在案嗣後商民等務須遵奉切勿將房地租外國人耕種居住致生意外拖累倘故違本公署定必從嚴懲治並將中保人一併嚴究自辦從前有租與外國人房地者猶應設法收回得視為具文其各遵照毋違切切此布

在鐵嶺日本帝國領事館

中華民國三年三月廿六日

林國棟

印

MT

11212

00824

MT

11212

00823

寫

大正三年四月十六日接受
機密第二六號

祕度ニ七八九號

大正三年四月九日

在天津

總領事窪田文三

外務大臣男爵牧野伸顯殿

天津警察廳長楊以德ノ談話ニ

關スル件

近來楊以德ノ一身ニ關シ種々ナル流言蜚語
行ハルハ屢次新聞紙上ニモ現ハルノミナラ
ス客月廿七日在北京公使ヨリ楊以德ハ三
月二十二日北京ニ於テ捕縛セラレ趙秉鈞在

外務省

世中武器ヲ密輸シ竊ニ乱虎ト通シテ陰謀
ヲ企テタルコト趙ノ為メ探知セラレトスルニ及ヒ
趙ノ料理人ヲシテ趙ヲ暗殺セント謀リタルコト
等ノ罪ヲ以テ昨二十一日北京ニテ銃殺セラレタル
謀報アリタル者ノ電報有之候ニ付取調ノ上
楊ハ上京シタル事實ナク北京ヨリ二十二月五
天縱當地ニ來リ革命党員五名ヲ捕縛シ
タルヨリ楊ト管轄權ニ付爭論シタルコトアリ
其事訛傳シ楊モ捕縛セラレタルカ如ク傳ハラレタ
ルモノナルヘキ者返電シタルコト有之候次第ノ處本
月三日同警察顧問原田俊三郎ハ楊以德
ニ面會ノ節楊ノ談話ヲリトラ本官ニ語りタル
要領左ノ通り有之候

MT

11212

00826

MT

11212

00825

昨今自分(揚以德)ノ一身上ニ関シ種々ナル
 風説ヲ耳ニスルカ其ノ内甚シキハ予ヲ越東
 釣毒教ノ下手人ナリト云ヒ或ハ日本人ノ買収
 セラレ該國ノ為メ自己ノ職權ヲ濫用シテ種
 々ナル奸策ヲ弄シツ、アリト云ヒ或ハ匪徒ト結託
 シテ事ヲ起サントスルノ形跡アリト云フカ如キ謠言ヲ
 流布スルモノアリカ若シ之レ等閑ニ附シ置クハ
 終ニ地方ノ安寧ヲ害スル虞アルヲ以テ此際
 斯ル謠言流布者ヲ嚴重ニ檢擧セシトシ種々
 探索セル所意外ニ此種謠言ノ出所ハ支那
 側ノミナラスシテ日本人側ニモアルトテ探知スルニ至リタ
 ルハ遺憾ニ感スル次第ナリ然シテ當天津ニ京
 畿總督查、京畿軍執法處、順天府探偵
 外務省
 長及北京憲兵營等、派遣セル密偵ノ外當
 地都督府直屬、密偵アリテ何レモ乱党流
 捕ニ関シテハ互ニ競争ノ姿ナル為メ彼等ハ種
 々誇大捏造ノ報告ヲ所屬長官ニ提出シ
 長官ハ大總督府ニ移謀シ總督府ハ復シ
 天津警察廳ニ覆査ヲ命スルヲ例トセルカ
 其ノ報告タルヲ多クハ日本人ニ関聯スルモノニシテ
 ニ三ノ例ヲ上クレハ
 一、松本君平ノ組織セル青年救世義團ハ破壊
 主義ヲ抱持スル結社ナルニ不拘揚ハ廣ニ
 取締ラサルノミナラス却テ保護ヲ與ヘタルカ如キ形
 跡アルハ明カニ破壊党ニ結託セルモノナリ
 二、日本商人中ニハ白狼匪馬賊若クハ破壊党

MT 1212

00828

MT 11212

00827

等、軍器ヲ密賣セル事實ナルニ場、該奸商
 等ト結託シ何等ノ取締ヲ加ハサルニト
 天津ニテ日本商人感ニルニヒテ其他ノ毒藥ヲ
 密輸出入販賣ヲナスニ不拘揚ハ之ヲ承知シ
 フカラ何等取締法講セサルニト
 四日本租界芝罘屋、日華公論社、天寶堂
 回生堂等ニ目下多数ノ破壊燒負潜伏
 之就中芝罘屋ノ如キハ匪首柳大年及其
 部下数多潜伏セルニ揚ハ全然之ヲ知ラサル
 態度ヲ極ニ展ルニト
 等ナルニ若シ予ニシテ政府ニ迎合シ一々之等ノ
 檢舉ヲナサントモハ直々ニ日本側ト悶着ヲ惹
 起スルノ虞アルカ故ニ自分ノ事件ノ重大ナルニ
 外務省
 ノミニ對シ取締ヲ加フルニ止メ其ノ他ハ大抵否認
 的復命ヲナスノ方針ヲ執リ展ルヲ以テ北京側
 ノ密偵等ハ予ヲ憚ムノ餘リ目下北京ニ於
 テ日本ニ對スル感覺面自カラサシ利用シ強
 テ之ヲ予ニ關聯セシメ種々ナル流言ヲ捏造流布
 シテ自分ヲ隔レント企テツ、アルナリ
 新任署理都督朱家寶ハ其威力微弱ニシテ
 都督府衛隊ヲ制御スル能ハス過級衛隊手
 當削減ノ件ニ關シ強ニト暴動ヲ惹起セシトスル
 模様アリタルニ付、自分ハ直々ニ之ヲ鎮壓措置
 シタル處朱都督及衛隊等ハ何故カ自分ニ
 對シ惡感ヲ抱キ種々中傷スルニ至レリ
 要スルニ北京各種機關派遣ノ探偵及當地

MT 11212 00830

MT 11212 00829

都督有密偵等ハ現下北京政府ノ日本ニ
 對スル惡感日ニ益々甚シキ際ニ乘ミテ日本人
 ニ關スル事件ハ針小棒大ニ報告スル傾キアル
 カ故ニ自分カ如何ノ日支間ノ國際關係親
 善圓滿シ熱望スルモ中央政府ノ日本ニ對スル
 感情全ク一變スルニ非サル以上北京方面ヨリ送
 付ニ來レル日本人關係ノ覆查事項ヲ全然
 否認スルノ態度ニ出スルニ於テハ終ニ自己ノ立
 脚地ヲ失フノ虞アルカ故ニ政府ニ迎合スル為
 メ或程度迄ハ積極手段ニ出テサンヘカラサンハ
 巴ムヲ得サル次第ナリ云々
 右為御参考及報告候敬具
 本信寫送付先北京公使
 外務省

原素ハ支那内政關係雜誌中ニ在リ

MT 11212 00832

MT 11212 00831

日使の支那...
...
...

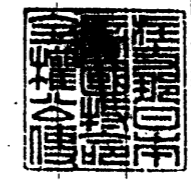
大正三年四月卅日 接受
駐務局 第一課

公第一二〇號

大正三年四月二十日

在支那

特命全權公使山座圓次



外務大臣男爵加藤高明殿

支那近時、對日本思嚮ト

實業政策觀察ト一篇送附ノ件

當館在勤中畑書記生題略ノ草一篇起草提出

致仕何等参考ニ可相成カト存シ進達致仕間

少査閱相成度也

在東京日本公使館

第...
09022號

外事報
第一號

一五五

MT

11212

00833

つ内前

四月三日稿

支那近時、對日本思、閣下實業政策觀察

三月三十日北京發行、漢字新聞大自由報、遠東問

題、日露交渉、將來山ト題、論シテ云フ

南京ノ乱事撲滅シテヨリ世界各国ハ民國ニ對シ始

テ一致信仰ノ心アリ蓋シ政權武力以テ海内ヲ統御

スルニ足り威名遠播自ラ信ヲ外人ニ取ル可ク是レ革

新人物ノ及フ所ニアラサル也、外蒙ノ兵起ルニ遠ビ列

強ノ觀察又昔ト異リ擁護政策一度レテ侵略主義ト

ナル昌黎ノ紫片馬ノ兵西藏ノ糾葛踵ヲ接シテ起

ル國權ヲ奪ル者應接暇アラサルノ勢アリ内乱南メテ

平キ外患之ニ継ク蓋シ如此夫レ難キ也然レテ露支

ノ協約蒙人ノ自治干戈ヲ息メテ壇坫ノ争執ト為レ

在北京日本新聞

仇讐ヲ解フテテ鄰邦ノ友好ヲ敦ラス而レテ外人ノ撤兵

ノ議遂ニ各國ノ新聞ニ騰沸シ露之ヲ唱ハ独之ニ和シ

佛亦之ヲ贊助ス德威ノ至ルニ環球風靡方サレ期ス

ヘীগノ約踐々可ク東亞ノ平和保シ可ク民國ノ基

業亦の將ニ諸ノ億万年ノ傳ヘテ墜テサル也ト、豈

料ニ東人挑隙極端ニ反對レ而シテ各國ニ見テ遂

ニ未ク諸ヲ實行スル能ハス而レテ、~~南地~~白狼

禍又起リ宣教師ヲ殺傷シテ國際上ノ惡感ヲ挑別

某國(日本ヲ指ス、以下並リ)ノ軍艦且の匪ヲ助ケ乱ヲ為

スノ事アリ(露國新聞紙ハ日露ノ戰爭準備ヲ宣傳

ス其説未タ必ス盡ク確カナラサルモ而カモ直接我が東

三者ト密切ノ關係アリ間接ハ我内地ト治乱安危ノ

關係アリ邦人~~情~~以テ細故トナレ之ヲ忽ニスル勿レ

MT

11212

00835

MT

11212

00834

試、~~現~~ 將來ノ利害ニ就テ逐節研究以

テ國事ニ留心スルモノ考案ニ備ヘン焉

一、某國ト乱党ノ關係ハ予防セサル可ラサル也

某國ハ悍ナリト雖モ我ト何ノ仇ヲヤ徒ヨリ亂事ヲ

協濟スル損失ヲ浩大ニシテ債ヲ將來ニ求メント欲スル耳

彼レ亂人ナル者ハ數十年奔走ノ苦ヲ以テ一敗地ニ坐ル事

有~~リ~~本國領土種族ノ滅亡ヲ惜マス~~ル~~其數

十人ノ私憤ヲ洩ラシテ外族ヲ假ツテ護符トナシ禍ヲ中

原ニ逞ツセント欲ス 倘シ外交ヲ嚴重ニシテ以テ乱源ヲ清

ナスレハ國家ノ患寧々己ハ時アラシヤ

二、白狼ト乱党トノ交通ハ以テ新紀セサル可ラサル也

乱党ノ匪ニ通スル亦常事ニ屬ス 範圍タル小醜談

應~~シ~~足~~ス~~從前此~~レ~~大~~ニ~~傷~~ル~~也

匪ニ猖獗日甚シテ數省ニ蔓延進~~ル~~地方甚炭觸目

心ヲ傷マシム乱党ノ波動必ス國家ノ禍ヲ貽ス加~~ル~~ニ某

國ノ協贊ヲ以テス 其害ヲナス乃ケ更ニ烈也 豈特タニ

西人ヲ屠毒シ僅カニ國際ノ交渉ヲ致スノミナラシ此時

ニ當リ某國ヲシテ乱党ト勾通~~ス~~能ハサルハ即ケ

某國~~ト~~匪ト通セ~~ル~~也~~ト~~此~~レ~~尤~~モ~~特別~~ノ~~注

意~~ヲ~~ナ~~ス~~モ~~レ~~非~~ル~~也

三、遠交近攻ノ策ハ熟計セサル可カラサル也

通匪ノ客ハ鼓盪シテ以テ我カ國家ヲ破壊シ我人民

ヲ援害ス我ハ某國トハ己ニ不解ノ仇ト成ル 將來能

ク和平ナルヤ否ハ尚~~ホ~~逆メ料~~ル~~ル可カラサル 數ニ至リ~~テ~~亂

党ノ失敗ヲ以テ怒~~リ~~我ニ遷~~レ~~露支ノ新協約ヲ以テ又

痛~~ク~~露路人ヲ恨~~ミ~~亂人ヲ保護シテ深~~ク~~内地ニ入~~ル~~是~~レ~~

MT 11212 00837

MT 11212 00836

我國ト間接ノ戦争也。倘レ異日露ト鬭ヲ開
 カハハ道ヲ我カ土地ニ假ラシ是レ未タ露ト戦ハサル
 即ケ先ツ我ト戦フ也。我ハ前清ノ如ク東三省ヲ棄
 テ、兩國戦争ノ地ト為ス能ハズ我ハ又一方ヲ補助シテ
 左祖ノ心ヲ存スル能ハズ我ハ又成敗敗ヲ坐視シテ局
 外中立ノ人ト作ル能ハズ我ハ又両方ヲ牽制シテ坐
 カラ濠澳人ノ利ヲ收ムル能ハズ(遠交近攻ノ主義ニヨリ露
 ニ加祖ス(レトシ志) 國內ノ競争未ダ息ムスレテ世界ノ
 競争起ル大軍事家其レ如何ニシテ軍之ヲ籌備
 レ以テ保國衛民盛譽ヲ為ス乎
 四、實業界領土(領土)外交上轉環ノ樞紐タレハ善ク之
 推移セサル可カラサル也
 露約成テテ外蒙兵ヲ息メ鐵路條約成テテ独人内閣ス
 權利上進取ノ勢ヲ軍事上即チ意外ノ變生ヲ致サ
 此實利主義ハ欧米各國ノ群有テテ注意スル者
 也列強對峙シテ勢力均等ノ勢已ニ成リ一ニ當ルヲ
 得サレハハハス償ヲ他費ニ求ム外蒙ノ約山東購鐵道
 一某國ノ憤ッテ不平ナル所也。數日以來漢治萍ノ
 交渉日一日ヨリ甚シク調印已ニ定マリ人民ハ憤激ス其事
 フ成サハ則チ權利損失ノ慮アリ其約ヲ廢セトセハ邦交
 ノ間隙生シ易ク國人ノ惡感又甚シ國權ヲ東ル者
 其レ如何ニシテ以テ大局ヲ維持シテ兩利俱存ノ譽ヲ為
 ス乎
 百戰百勝ノ軍カト曠世罕ニ購ルノ偉人ヲ以テ及ハ
 内乱ハ何ヲ以テ定ム外患ハ何ヲ以テ息ム兵紀ハ何ヲ以
 テ肅静シ外交ハ何ヲ以テ勝利スル利ニ因リ便ニ乘ジ

在北京日本公使館

MT 11212 00839 MT 11212 00838

約三枚
生
録
録

以テ萬葉ヲ禦クハ必ス當ニ揣測ス可ラザルノ計畫アリ
以テ我國民ノ希望ヲ飽カスモノアリ海内ノ同胞請フ
拭目以テ之ヲ俟タシ

ト宛然タル對日本ノ宣戰狀ナリ而カモ右ハ安徽派ノ領袖陸
軍中將ニシテ總統府高等顧問進歩黨理事タリ約
法會議々負ヲ兼ネ袁總統トハ最モ接近セル關係ヲ有シ
毎ニ總長都督等ニ擬セラル所ノ王揖堂(或カ陸軍士官學
校出身)カ尤モ主持スル大自由報ニヨリ公々盤ト論說セラルニ
至リテハ決シテ輕々ニ看過ス可ラザルハ勿論而カモ本文全篇
ヲ熟讀シ袁總統ノ日露戰爭當時ノ態度歴史ヲ回顧
シテ近キ第二革命前後ヨリ支那官民カ本邦官民ニ對
スル誤解猜疑ヨリスル種々ノ出来事ヨリ各國ニ對スル鐵道
實業ノ利權讓與等ノ関スル施設用意ニ見エテ前論

在北京日本公使館

第三第四ノ遠近攻政策實業政策ニ論述スル對
照シテ揣摩スルハ本論ノ如キハ少クモ袁總統政府ノ言
ハントスル所ヲ尤モ忌憚ナリ論述シタルモノニシテ支那民
心否ナ政府者流ノ意圖ヲ推知スルニ足ルモノ有レハ少ク其
ノ由来ト影響トハ然テ説述スル所アラントス
蓋シ革命運動勃發當初以來其首謀者ノ關係
上日本官民カ革命派ヲ援助シ否テ少クモ革命派ニ多
大ノ同情ヲ有スルモノナリトハ支那官民間一般動カス可カ
ラサル信念ニシテ殊ニ袁總統等ノ心底抜ク可ラザル印象
ナルヘレ南北確執シ殊ニ第二革命以來ノ出来事ヨリ彼
等革命首謀者輩ノ一敗地ニ墮レ踵ヲ接シテ日本ニ
亡命スルヤ更ニ一層其感念ヲ深クシタルモノアルハ疑ヤレ此
間袁總統ハ列國ノ支那ニ於ケル利害ヲ權衡シ探能

MT 11212 00841

MT 11212 00840

レテ善後借款ヲ得テ遺憾ナク革命派ヲ掃蕩シ尽シ
一面ニハ列國承認ヲ得テ香餌ヲ掲ケテ憲法ノ制定ニ先ケテ
己ヲ正式大統領ニ選舉セシメ暗ニ利権割譲ヲ仄メカ
レテ巧ニ列國ノ承認ヲ七脚チ得テリ茲ニ於テカ彼カ根底
漸ク堅ク列強推後ノ勢亦成ル、十一月四日ノクーデー
ターニヨリテ國會ヲ地ニ陥レ全國ノ國民黨ヲ解散シ次
イテ省議會ヲ停止シ各種自治機關ヲ解散シ言論檢
閲ヲ抑制買収レテ顧慮スル所ナシ中外為メ目ノ算算ッ
而カモ袁ノ力量ヲ信賴シ擁護シテ秩序ノ恢復ヲ期回ル
列強ト乱ニ倦ミ治ヲ思フノ社會ハ寧ロ緘黙シテ此ノ武
斷敢行ヲ歡迎セルハ餘儀ナレト虽モ不平ノ徒ト乱ヲ
思フモノハ各地各方ニ於テ有ニル方法ニヨリテ袁ノ施設ニ反對
シ破壊セントスルモノアルハ又已ムテ得ル所ニシテ而カモ袁政府

在北京日本公使館

者ヨリテ之ヲ見レハ皆日本ニ命スル首謀者ノ使喚企畫
ニ出ツルモノト見國際ノ常理トハ知リテ怒ヲ日本カ該亡命
者輩ヲ緩容スルニ移レ謂レテナクモ日本ニ對シテ不快ノ感念ヲ
抱クに至ルハ亦免レ難キノ情理ニ屬ス此間南京事件
及ビ漢口ニ於ケル西村少尉袁州ニ於ケル川崎大尉侮辱
事件ノ解決ハ日本カ徒ラニ強權ヲ推レテ支那ニ不當ノ要
求ヲ強請シタルト誤解セラレ偶々昌黎事件ノ發生レ
事實ハ到底支那ノ要望スルガ如ク解決ノ餘地ナク依
然トシテ懸案トナリ居ルノ事實ハ一朝ニシテ共和國ノ看板
ノ下ニ列國ノ承認ヲ得テ意氣得々、事實ト矛盾セル
法理ノミヲ唱道スル民國人殊ニ中央官場ノ甚クシテ不満足ト
スル所ナリ殊ニ今ヤ白狼ハ猖獗跋扈ヲ極メ湖北河南ノ
中原ヲ蹂躪シ今ヤ正ニ陝西ヨリ四川ニ入ラントシ袁政府陸軍

MT 11212 00843

MT 11212 00842

が行動し得ん全カヲ以テシテ其根本的鎮壓討討ハ實
 ニ目前容易ノ業ニアラス而モ蔓延久クセハ全局影響ノ及
 フ所設想堪ヘサルヲアリ況ニヤ今ヤ所謂乱党乃ケテ命
 者一放カ白狼ト勾結シアルハ掩フ可クヤルノ事實ニシテ七命
 者カ日本ニ在ル一日ハ自然焦慮憤恨ノ情ヲ日本官民ニ
 移シ事ニ藉リ核ニ乘レ専ラ我カ官民ニ對シ及威反抗的
 言動ヲ敢行スルニ至ル所以ニ非ルヤカ、最近各方面ノ情報
 一徹レ之ヲ察知ス可キ也又々英米各國例ノ立場ヨリセハ
 其利害關係上支那ノ秩序恢復ノ一日モ遅カナラント欲ス
 ルノ情切ナルト具ツハ日本官民ガ各方面ニ於ケン發展ヲ
 精緻レ嫉妬スルノ情アリ故ニ支那官民ノ意ヲ迎合レ
 附和シテ我行動ヲ誇張ニ吹聴シ非難ノ論述ヲ試ムルモ
 ノアリ近來北京上海ニ於テ英字新聞論調ハ殊ニ漸ク
 乖離セントシツル支那官民ヲ煽動シツルナリ、上海南頭
 事件、廣東都督部下ノ兵カ我邦人旅館侵入事件ヨリ
 北京順天時報社々宅侵入搜索拘禁事件ヨリ甚クシヤ
 ハ黎明支那憲兵カ陸軍當局ノ命令ヲ奉レ順天時報
 社ニ侵入レ交通自由ヲ遮断威嚇シテ新聞機關強行ノ
 怪事ヲ敢テスルニ至ル東三省及東蒙一帯ニ於テハ近來ノ
 行柳ノ上特種ノ情實アリトスル支那巡警ノ兵卒等ガ
 我カ鐵道附屬地ニ侵入不法行爲ヲ敢テスルト類々ニテ
 殊ニ東蒙ニ於ケル邦人旅行者ニ對シテノ過刻不法ノ
 制限妨害ヲ加ふる事實是レ亦邦人ノ甚ク不快トスル
 所ナリ最近ノ週刊上海ハ長通通信ニヨリハ近來
 日本人ヲ嫌厭スルモノ一般ニ及ヒ日本人ハ乱党ニ混入レ或ハ
 之ヲ導クモノナリト誣信レ官憲ニ西洋人ニ寛假ニテ日本

在北京日本公使館

MT 11212 00845

MT 11212 00844

人ニハ厥查スル支那人以上ニテ或厥令ヲ布クモ日本領事
 ニハ一應ノ予告モ無ク勝手ニ在留日本人ヲ取扱ヒ侮蔑
 ノ端ヲ開ク云々ト言ヘリ。長沙一帯ハ由來我國ニ對シテハ
 頗ル良好ノ感情ヲ有スルヲ稱ス。假シ一時的ノ現象トス
 ンモ甚タ不快ノ報道アリ。長沙尚然リモ他ハ推知スル
 此ノ趨潮ノ所謂遠交近攻策トナリ實業政策ニ及ホス
 影響ニ想到スレハ大ニ憂慮ス可キモノアリ。最近漢冶萍
 同類ニ對スル官民ノ極力及對スルカ如キ實業ニ一掃也
 トス。最近上海ノ神州日報カ所謂實業政策ト列
 國關係ノ概微ヲ説述スル題ニ詳細ニ涉ルモノアリ以テ
 序ナカラ併セテ之ヲ尤ニ叙述セシ
 神州日報ノ記事ハ實業借款ノ發着ト生ル所ノ波
 動ト題シ桐生心一區名ニテ北京ヨリ通信セルモノ也其論

在北京日本領事館

調記載振リヨリ推セハ或ハ前考議院派員ニテ更細
 亞日報記者タル丁世嶧(山東選出)ノ通信ナラカト思ハル
 カ是レ北京ニ於テ敢言レ得ス故ラ上海ノ新聞ヲ藉リテ
 暴露セルモノト察セラル。該通信ハ先ツ實業借款政策ノ
 由來ヲ論述シテ云フ

實業借款ハ前清末ニ端倪ヲ發シ盛宣懷先ツ
 之ヲ唱フ東三省實業借款川粵漢鐵道借款ハ其ノ
 特証タリ當時田氏ハ盛一人ヲ攻撃セルモ黑幕
 別ニ其人アリテ知ラサル也。民王成王後總統府ノ某
 君(梁君ハ梁士詒ヲ指ス)交通面ニ於テ尤モ發展
 フ謀リ時々實業借款ヲ鼓吹セリ(之ハ記者ノ親シ
 ク湯化龍王揖唐ニ聞ク所也)孫文北京未後鐵
 道政策ヲ揭ク又中日實業公司ヲ組織實行シテ

MT 11212 00847

MT 11212 00846

國人ノ耳目ヲ震起シ某君モ亦其間ニ幹旋スル所アリ
 レモ其眞意ニハアヤカシレ也 名流内閣(熊希齡張謇
 等内閣)成立シ能希齡果敢超カ某要人(梁士詒
 ヲ言フ)ト對峙シ言語ノ不慎ヨリ實業借款ノ一語ヲ
 洩ラセヨリ某君聲ニ應レテ起テ積極實行シ数月
 ナラサル間前督ノ齊シク發スルカ如ク鄂漢(沙市興義)
 同成(大同成都)浦信(浦口信陽)川身(欽州重慶)
 濟順(濟南順德)高韓(高老韓莊)系餘里ノ鐵
 道ヲ考テテ外債ヲ借入シテ張謇ハ熱心ナル同情者ナリ
 前清時實ニ盛宣懷ヲ幫助シテ實業借款主張シ張
 侶者ナリ鐵道及礦山及下能梁等ト相併シテ
 國內方面實業借款主張者大ニ其人アリト言フ可ク又
 外國側ニシテ五國銀行團ハ實業借款ノ開放ヲ宣言
 シテ各國資本家莫不地ヲ捲クラ来リ我國ノ鐵道鉅
 山者數月ナラスレテ地ヲ掃フノ概アリ加フルニ外交ハ裏面
 ヲ相助ムルヲ實行更ニ阻害ナキ也
 ト言ヒ進テ實業借款ノ實行ニ言及レテ云フ
 前次實業借款ハ單ニ鐵道ノミナリシカ交通才中
 能内閣ト共同テ外債ヲ借入シテ進行全國鐵
 道ハ一ニ定議シ遂ニ他業ニ及テ導手准(淮河漢口)借
 款、浦口開埠、漢口建築商場借款ハ皆此類也
 其關係ノ最大世界ノ耳目ヲ震驚スルモノ延長
 石油礦ノカシタドトノ合資事件ナリ此事々我
 國社會ハ初メ之ヲ知ラス之ヲ聞知セシ時ハ已ニ契約調
 印ノ後ナリ北京人ハ漢治洋借款ト並ハノ同一ノ及
 對テオスモ二者ノ性質ノ不同關係ノ價值甚ク懸殊

以テ
 二、實業行借款
 實業行

在北京日本公使館

MT 11212 00849

MT 11212 00848

あり

スルヲ知ラザルナリ吾人ハ今ニ及ンテ初メテ知レド鐵道盡
キタル今日ノ所謂實業政策トハ專ラ砂山ニ對スルニ
レテ延長石油合資ハ其最初開幕ノ才一劇ナルトナ
ト言ヒ更ニ實業借款中ノ延長問題ト提言シテ二月十二
日双方調印ノ次第ヲ詢貝勒カ米國ニ於テ提議當時
ノ事情ヨリ日本ノ要求及對ノ次第ヲ簡單ニ叙述シテ後
實業借款ノ政策トシテ説述スル所ハ

一六一

實業借款ノ政府ノ政策ハ人皆知レ惟其内
容ハ種々ノ目的ヲ含有シテ外間其ノ底ヲ細ク知ルヤ
記者ハ本年向來國貨ノ議論ヲ聞カズ最近ノ消息
據此政策決定ハ實ハ列強カ其勢力範圍ヲ
維持スルニ支那社會資本ヲ利用シテ其勢力
ヲ擴張スルニ在リテ其結果ハ分利後進ノ
在東京日本公使館

結果ハ内亂トナリ國家收入ノ減少トシ故ニ實業
借款ノ内帑ハ實ハ直接ニ列國ニ支那ニ於テ實業
力範圍ヲ破壊シ且、外資ヲ利用シテ間接ニ社會
事業ヲ開發スルニ在リト此兩個ノ作用ハ尙相當
ノ價值アリ然カモ若シ分割ヲ免レ内亂ヲ消滅シテ
收入ヲ増スト言ハ、吾人敢テ信セザル也國政ハ枯涸シ
社會ハ窮極セルニヨリ實業借款ニテ聊カ救済ノ
潤色スルアルニ記者ノ目ヨリ見レハ寧ロ行政經費
ノ出費ナキニト直言スルノ勝レルヲ覺ユ蓋シ近日路
ノ借款ハ毎々前貸若テアルノ故也惟シ此策ハ
實行シ其辦法ハ畢竟スルニ借款ナヤ抑々合資ヲ
主トスルヤ政府ハ合資ノ現金ヲ出サス(磁地磁産
ヲ以テ株資トス)レテ利益ヲ取得ス(レトテ借款ノ

MT 11212 00851

MT 11212 00850

割

日海軍借款
及ス影響

一六二

曰フ

危険ヲ極言シ、~~韓軍軍費~~破産帰來故、鐵道專准及建築借款、外磁山、專ラ合資主義ヲ取リ、ト逐ニ延長承德石油磁石、スラ、ト台資契約セリ、之レ改革實行ノ第一歩ナリト言ヒ、更ラ實業借款ノ列強ニ及スル影響ニ説述シテ

實業借款、已ニ各國ノ勢力範囲ニ着眼ス、其方、法、甲國ノ資本ヲ以テ乙國ノ勢力範囲ニ入ル、在列強ノ支那ニ占有スル勢力、比較的長江流域ヲ以テ、鄂莫トシテ長江流域、英國ノ勢力範囲也、去年以來、米、專准ヲ占メ、佛、浦口及漢陽鐵橋建築ヲ取り、鐵道借款ニ在テハ露、同成ヲ得、英、鄂漢ヲ得、最近佛、ハ川專ヲ得、英里、長江幾シノ混合ノ

在北京日本公使館

勢力範囲トナリ、又大不利、頗國独占ノ範圍ニテ、也、川專鐵道、英ニ於テ尤モ不利ナリ、故ニ此借款、英大ニ反對シ、乃チ急起シテ浙江江西ヲ徑テ湖南ニ至ル、鐵道ヲ要求シ、日本モ亦福建ヨリ江西ニ至ル、鐵道ヲ要求セリ、惟テ獨ノ濟順高幹兩線、日、汎南五線ハ尚其勢力範囲ニ在リ、要之、其ノ如何ニ論、ナリ支那ノ懷失タルハ一カニモ列國ノ此ノ波動ヲ受クン、亦少カラズ、延長石油磁石、至ッテ、米國久シク垂涎スル所、蓋シ石油海軍磁石、發明セラレテ、米、墨、其西ニ於テ、平津、英ニ失敗シ、即チ債ヲ取ルモ、其目的ハ尤モ太平洋一方ノ關係ニ在リ、日本ノ承德ノ事、ソノ孫文ノ實業連合ニ伏線シ、其目的ハ正ニ米國ト同、コレヲ實際ハニ反對ノ地位ニ居ルナリ、又、タ、ター、ト、合資

MT

11212 00853

MT

11212 00852

おし
ル

契約成ルヤ日本人カ憤恨懊悩名状スベカラハルモノ
アリ東京ノ各新聞ニ目レテ外交ノ失敗ト言ヒ太平
洋海軍ノ戦敗ト言ヒキヤアリモ影四首實ニ普
通ノ借款ノ比ニアラス誠ニ世界ノ波動スルノ價値也
我國十余年来ノ借款ハ多ク勢力ノ範圍ノ性質
ヲ含有セルモ今後ハ勢力ノ範圍ヲ單純投資ノ一方
ニ置ク事トナシ政府思ヘラテ分割ヲ免ルヘシト
但レ記者ハ愛ヲ共同管理ノ期ヲ去ル遠カラザル可シト
記者ハ進ンテ實業借款ニヨリ惹起セル内部的政權
競争ニ叙及シテ云フ

五
實業借款
志起セル
内部的
一六三

支那政府ハ甚ク渾沌タルモ政權ノ所其ハ極メテ明
認スル所但レ向後共兵權ノミニヨラントスルハ不能ナリ

一六三

在東京日本新聞

兵權以外ハ財政權ノ操縦ヲ要ス財政權ハ將
来經濟上ノ勢力ヲ作スヲ以テ也今ヤ中國危亡ノ
勢已ニ露出シ政界ノ諸公已ニ之ヲ省取ス故ニ七回
後個人ノ準備ハ及々夜營謀進行シテ休
マサルモハ蓋シ皆財政權ヲ占取シ餘利ヲ分取レ以テ
猶太種族ノ番頭位補者ヲラント欲スルニ是レ野心家
ヲ私利党タルニ論テ餘勇ヲ奮ヒ政權ヲ競ヒ財
政權ニ接近ノ極會ヲ得シト腐心スル所以也實業
政策決定後外交(借款交渉)ヲ言ヒ外交即チ意味
セズ交通、農商、財政ノ四政權ハ都テ已ニ漸リ
趨一レ若レ此ノ局面確固ヲ得ハ兵權ヲ凌駕スル
ハ自然ノ勢ナリ而カモ大總統ノ意ハ測ル可ラス
来リ動ルモ亦其ノ他日總統内閣制中別ニ

MT

11212

00855

MT

11212

00854

以下前ル
ひきかへ

總理ヲ置ク事トモナラハ政局上ハ一番ノ競争ナル
 可ク而カモ是レ亦實業借款ノ催進與ツカカレ也
 ト言ヘリ要スル外資輸入實業開放遠交近親或ハ親
 仁善隣(略ホ亮表也)施政方針ハ親仁善隣ト言ヘリト
 言ハル能希内閣カ最モ標榜シタル實業外交ノ
 施政方針ニシテ而カモ其着々トシテ施設シタル實際ニ顧シ
 ハ毎ニ甲國ノ資本ヲ乙國勢力範圍ニ注入シ彼此相
 牽制セリ所謂勢圍ヲ攪乱セシメントノ術第ニ出テタルモノ
 ナレハ記者ノ説述畧ホ肯綮ニ中シテアリテ至若果標榜
 セル遠交近親ト言ヒ親仁善隣ト言ハレハ外交方針ハ殆
 ノトモ意義トナリテ同種ノ感情誤解ノ虞アリトスルモ
 我邦ニ對シテ忌憚ナク遠交近攻ヲ絶叫スルモノアルニ至ル淺
 見等ノ誤殺ス可キ也 今ヤ各方面ノ支那人ニ就キ細密
 ニ論究シ其所見ヲ擧ゲハ其所説區々ナリ而カモ財政整理
 ノ困難ト人民生計ノ困難ヨリ民心ノ亂雜トヨリ遂ニ悲心
 觀ノ極矣ニ達スルハ一也 咸同年間長髮賊亂後ニ於テ
 曾國藩兄弟胡林翼等ノ諸人傑カ最モ心血ヲ澆キタルハ
 軍隊ノ始末ナリ民力疲弊ノ恢復政府ナリ而カモ二十餘年ノ
 歲月ヲ経テ僅カニ其後ヲ善クシタルモ當時ノ淮勇
 湘勇ノ遺制ハ六十年ノ前清末代ニ及ヘリ(勿論利害ノ
 激論ノ余地ハ有ルモ)而カモ當時人民担負ノ輕重ハ到底今日
 ノ比ニアラス 況ニヤ日清戰後二十餘年以來殊ニ物糾錯
 雜セル政治經濟上ノ關係ヲ以テスルヤ
 前清末代銳意經營セラレタルニテ六師國ハ未タ其ノ半
 ニ達セザルニ俄カニ革命ノ勃發ニ過ヒ全國八十餘國ノ多
 キ一上ニ兩年以來裁撤解散シタルヲ数ナラズ知ラスト雖モ

在北京日本公使館

MT

11212

00857

MT

11212

00856

假リ陸軍當局ノ五十師團ニ減テレ一師毎年ノ經費百
 万トスモ五千萬元疲弊ニ担負ノ重キニ堪ヘサル支那民カラ
 以テレテハ決シテ輕クアラス也日清戰役義和團ノ乱ヲ經
 テ支那ノ外債ハ頓カニ加重セリ人民ハ一面此ノ負担ヲ負ヒ一面
 所謂新政學弊ノ諸費ヲ担負セシメラルモ十餘年
 遂然タル其加重ノ負担ハ人民ノ到底堪ヘ難キ所ナリ而カモ
 政府官場ノ多尙者ハ權勢之ヲ恃ミ奢侈度ヲ醜聲達
 滿ッ何寺新政々績ノ見ル可キナリ人民幸福ノ余澤
 ナレ生計日ニ艱難ニ民心乱雜レ革命ノ旗幟ハ武漢ノ
 一州ニ擧ケテ天下響應レ二百餘年ノ天下ヲレテ之ヲ數旬
 ノ間ニ覆滅スルニ至ル今ヤ袁總統政府ハ武斷專制
 於テ清朝末代ヨリ甚シク有ニ憲政機關ハ上國會ヨリ省
 議會地方城仰自治ニ至ル迄凡テ之ヲ解散レ言論機關ハ
 之ヲ抑壓レ陳蹟レテ尚ホ是ラズ今ヤ地方審判廳サレモ之ヲ
 撤廢セト政治會議ニ諮詢シテ之ヲ用意ヤ蓋シ全
 國ノ統一ニ慮レテ他ヲ顧ヒニ違アラザンモノ如ク而カモ一面
 ニハ新建設ヲオムヘントテ奇怪至極ナル約法會議ナトテ且
 集レワアルモ而カモ其施設スル所ヲ見レハ外國ノ法令規則
 ヲ參酌抄襲セル教令條例章程カ爾後ノ筭ノ如
 ク發生スルアルヲ見ルノミテ地方行政吏治ニ於テ財政ニ
 於テ差タリ宣統二年ノ程有ニ恢復セントハ公又モ電中
 屢々見ル所ナリ某支那人ハ冷評レテ言フ宣統二年ハ前
 清ノ末代ナリ新建ノ共和國ニシテ專制末代ノ程度ニ恢
 復スルヤ企及スルカ如キハ奇怪千萬ナリト而カモ其制ノ惡
 政治ヨリ一掃レテ共和之憲法治國ノ班ニ列シ得タリト夢
 想スル政府官場者ノ得意ナリ奢侈ト汚吏貪官ノ

在北京日本公使館

MT 11212 00859

MT 11212 00858

悪弊ハ之ヲ前清ノ末代ニ比レ武ハ更ニ甚シキモノアルトナ
 ラズ人民生計ノ困難ニ至ラハ尤モ甚シキナリ湖南ノ例ヲ
 以テ之ヲ言フ湖南ハ久ク外間トノ交通疎隔不便ニシテ
 且ク米ノ産地トシテ米生計ノ容易ト部ニ属ス十年前
 米一斛ニ千文ヨリ世ニ文前ホニ今ヤ八十餘文ニ上リ塩一
 斤ニ千文ノモノ今ヤ百千文油一斤八十餘文ノモノ今二百四
 十文ニ至ル而カモ交通衰達ノ結果輸入ノ増加ニ伴ヒ輸
 出ノ増加シタルモノアリ輸出入ノ増加ハ産物ノ改良ト生産
 ノ発達ヲ意味スルニ能スレテ後ラニ擄搜羅輸出ノ活
 果益々民生ノ困難ヲ意味スルモノナリト 慥カニ一面ノ真理
 ナルモノ實詰ナリトス湖南省並リ各省尚然ルモノアリ
 軍隊ノ養成ハ至難之カ裁撤ハ幾多ノ危険ヲ含ム人民
 生計ノ困難ハ全国ノ通患ニシテ更ラニ人心乱離ノ大危
 険ヲ含ム而カモ今日ノ財政状態ト一般ノ状況ヲ推セハ之
 救済ニ至レハ何等ノ成算ナシ然レ内内カ所謂善後ヲ
 顧慮スルニ違アラズ外資ヲ輸入レ一面ハ各モノ勢力固
 ヲ攪乱シ間接ニ社會民生事業ヲ崩壊セントノ窮
 策ヲ案出スルニ至ル而カモ官野極ニ至レハ怨親ノ一兵一蹄
 着スルモノ神州日報記者ノ所謂政界ノ諸公ハ支那
 危七ノ勢カヲ看取レ七因後個人ノ準備ニ及々トト喝
 破スル所ナリ

在北京日本公使館

以上叙述スル如ク近時支那官民カ本邦ヲ猜疑シ誤
 解スル原因ハ多端ノ關係ヨルモ其真ハ北京シテ實
 ニ袁總統政府ノ武断統一ニ慮スルニ出テ対内的関
 係ヨリ今ヤ乱ニ倦タル一般官民因作共表面表ノ抗汶
 ヲ容認シ敢テ反抗スルヲナク言論ハ南北ヲ通シテ

MT

11212

00861

MT

11212

00860

凡テ壓迫威嚇セラレ何等素政府ノ施政ヲ直言論評
 スルヲシテ而カモ生計ニ苦シキ乱離シヨハ人人心ヲ收攬故
 済スルノ一段ニ至レハ何等ノ良策ナレ是レ實ニ革命
 党激ノ煽動ナキモ毎ニ内乱ノ危険子シテ袁總統ハ
 夙夜憂心ノ仲々ナラシマラシキハ恰カモ白狼ノ一群
 猖獗跳梁ヲ極メ教者ヲ蹂躪シテ甚シキハ外國宣
 教師殺害ノ辱ニ至ル大軍數月勦討只効績ナキ
 ニナラス官軍内通ノ謠言サハ傳ハリ大ニ世界ノ物議ヲ
 招ク而カモ白狼ノ猖獗ハ一ニ在リ邦亡命者ノ煽動ニ見
 トハ袁總統政府ノ確信揚言スル所モ同邦人經官
 人順天時亦カ支那官場ノ壓迫以外ニ立テ起然得
 諺トシテ袁總統政府ノ施設政策ヲ論評シテ諱ハ
 彼等ヨリ之ヲ見ル事ハ所謂乱党ヲ推覆スルハ是レ
 亡命者カ本邦ニ滯在セル一事ト共ニ袁總統政府者
 ノ表情慍シトセサル所ナリ可ク遂ニ今回強制檢閲ノ靈
 行ヲ敢テスルニ至レルモ力是レ今次ノ対日本反感趨潮
 ハ正ニ北京袁政府ノ手加減ニ由ラト觀察スル所以也

在北京日本公使館

(終)

MT

11212

00863

MT

11212

00862

4. 支那
支那の歴史
支那の地理

文書課長

大正三年五月八日 謹

大正三年五月四日 謹

註政務局 第一課

公第一三二二號

大正三年四月二十四日

在支那

特命全權公使山座圓次郎

外務大臣男爵加藤高明殿

我が新内閣成立ト

支那新聞論調

昨年南北及日ヨリ国民党負、壓迫國會、解散前
後ヨリ政府、新聞、對スル、壓迫、買収極端、至リ支那
南北ヲ通シテ政府ニ反抗スル、如キ論述表目ヲ為ス新聞、
殆ントモク、殊ニ最近新新聞條例發布セラレテ新

在北京日本公使館

聞、對スル、横東ハ愈々嚴、各新聞ハ閉息セラレ記事
論説、毫モ生地ノ見、可キ無キニ至リ、近來我が
東京朝日、大坂報知、國民及ヒ東京日々等ノ新聞、
對支、威壓主義ノ記事論説、稍々支那新聞
間ヲ覺醒シ、漢字新聞中、之ヲ譯載セル者、亦ナカラ
サル折柄、偶々昌黎案件ノ解決了相俟ツテ、分カ
一般言論界ノ對日感情ヲ動カセル者、如ク四月十
九日ノ民憲日報、如キハ、中日邦交提携ノ好機會
也、社論ヲ掲ゲ輿論ヲ喚起シ、次弟ハ公信第一二号
中略ニ叙述ノ通り、先是山本前内閣ノ辭表奉
呈以來、清海内閣ノ成立ニ、誓ントレテ却テ大命ヲ拜
辭シ、汝テ大隈内閣成立ノ傳稱セラン、ヤ伯ノ閱歴カ
治支那人間ニ孰知セラン、夫ケソレ、夫ケ當國一般ノ注意

MT

11212

00866

MT

11212

00865

々喚起し各漢字新聞ハ競フヲ本邦電報及ヒ我が新聞ノ
 論説記事等ヲ譯載スルノ有様ナレカ袁總統カ對
 大隈内閣成意感想トシテニ三新聞ニ掲載スル所ヨレハ
 大隈伯カ八十ニ垂ントスル頽齡ヲ以テ驟然トシテ起チ
 政潮混沌國家多端ノ際ニ當リ其毅力ヤ實ニ敬服ス
 可ヤモアノ自ラ顧シハ予ノ伯ニ比シテ二十餘年ノ年ヲ以
 テレテ民國大任ヲ委托ヲ受ク應サニ番ノ奮勵ヲ要ス
 ハ勿論伯ハ東洋平和ノ維持支那領土保全論者ナ
 レハ伯内閣ノ成意ハ尤モ歡迎スル所ナリ云々
 上述ヘタリトカテ他四月十九日ノ國權報ハ大隈伯ト中
 日邦交ト題シテ先ツ同文同種ニ唇齒相依ノ誼ヲ説キ起
 レ兩國提携ス可キ大理ヲ説キテ昨年弟ニ革命前後ノ
 關係ヲ指摘シ白狼ノ跋踞ニ言及シテ日本ハ徒ラ支那ノ多
 事ヲ好ミ強硬手段ヲ以テ壓迫ヲ是レ事トセシテ論
 次イテ故伊藤桂西公爵ノ政策ヲ回顧シテ侵畧之レ事ト
 スルモノナリトシ大隈伯ノ國歴ヲ稱揚シテ言フ
 然カモ此ノ波瀾瀾倒橋危柁險ノ時、際シ深沈雄
 偉群流ニ高邁ニ風ニ世人ノ信仰スル者ニ非サレハ以テ大
 疑ヲ決シテ文計ヲ定ムルニ足ラス(申略)大隈氏適々此
 時ニ於テ運ニ應レテ出ツテ將來ノ政界ニ對シハ大ニ
 異彩ヲ放ツヘレキ東亞ノ大向ニ於テハ亦中ノ平和ノ幸
 福ヲ謀ル可キ也 何トシハ大隈氏ノ國ト東亞ノ平和
 維持ト中國領土ノ保全ヲ主張スルモノナレハ也 此以高
 邁ノ身ヲ以テ玉家ノ重任ニ膺リ老ヒテ益々壯ニ雄心
 未シ改メズ展布ノ餘効ニ言ニ致ス可キ其存用スル
 所ノ因負ニ亦皆一時ノ名士將來自ラ同ニ協力岐

在北京日本公使館

MT 11212

00868

MT 11212

00867

異ヲ生セス曰文兩國ノ邦交同類ニ至ラズ相互提携親
愛シ再ヒ以前ノ覆轍ヲ踏ムニ至ラザル可キハ斷言ス可
クモ在野多年専ラ教育ニ注重シ早稲田大学ニ
授課スル日本及赤田ノ留學生ノモ教訓ヲ聆キ智
識ヲ增長スルニ幾何ナルヲ知ラス故ニ身ハ野ニ在ルニ
為ニ育オレ勢力鷲ノ巨 今日既ニ推サレテ國務ヲ總
理スレハ即ケ將來東亞和平維持ノ第一人也
以後日支ノ邦交日ニ益ニ親密ニ亞東ノ風雲日有ナ
色ヲ愛セシ記者ハ將サニ筆ヲ濡ラレテ以テ其後ヲ俟ツ
ニ待テハス

ト結語セリ四月二十一日ノ民憲時報ハ亦タモ社論撰ノ
時事評論ニ放テテ政治家ノ氣骨ト題シ大隈伯ノ自
量規模故伊藤公ニ及ハス之ヲ李鴻章ニ比シテ遜色見

在北京日本公使館

モ而カモ極垣連合内閣失敗後在野多年後進ヲ培
植シ同志ヲ連絡シ今日ノ朝野方面政友會以外一大勢力
カニシテ今後内閣ノ壽命長短知ル可ラザルモ伯カ政治生
涯ノ氣魄日本甲ニ至ラズ固ト己ニ定ムトシテ晨星ノ如クトモ
ヒテ衰世汎ノ政治的雄厚ノ既カ強毅ノ實行ヲ稱シテ支
耶人物ノ寂莫ヲ慨シ別ニ同日ノ時評撰ニハ大隈伯ト
徐東海トト題シ兩者相比較シテハ「吾國ノ老成碩彦
朝野ノ欽戴ヲ受ケ世界ノ大勢ヲ知り大隈伯ト題頑ス
可キモノ夫レ惟タ徐東海ノミ果シテ能ク大奇ヲ眷念シ
出テ艱巨ニ任セハ則ケ兩雄携手ニテ東亞ノ平和ノ兆或
此時ニ之ヲトス可キ乎ト言ヒ又世ノ民視邪ハ多ク時
評撰ニ「日本大政方針ヲ評スル」ト題シ日本大隈内閣
成立以後余之ヲ聞キ雀然トシテ喜ヒ嬰々然トシテ語ラ

MT 11212 00870

MT 11212 00869

禁ハス喜フハ大隈伯ノ眼光素ト遠ク或ハ我中国ヲ扶持
 スルキヲ以テ也 如島ノ其ノ野心勃々尺ヲ得テ尺ヲ進ムルヲ恐
 ル也ト言ヒテ我邦各新聞傳説ノ大政五方針ナルヲ
 言及シテ其国防完備ノ主義ヲ總念セリ又二十日ノ黃鐘
 日報モ我社論欄ニ「大隈伯ト東亞ノ大局ト預レ伯内
 閣組織ハ隣邦ノ偉譽ニシテ吾人ノ絶對ノ親愛ノ志ヲ表
 示シテ之ヲ賀ス但レ伯ハ實ハ平素同種同文ノ以テ我國人ト
 齒學生ノ齟齬レ以テ東西文明ノ調和レ東亞大局ノ保全
 ヲ自任スルモ我邦人ヤ幾分野心家ノ風味ヲ備ルモ亦武
 人派ノ野ニシテ密ニテトハ同シカラスト稱レ更ニ伯カ東亞ノ大
 局ノ着眼シテ平素東亞保全ノ言論實行ヲ期待レニ
 三日ノ國事報ハ又我社説欄ニ「千呼萬喚ノ日本新内閣
 ト標預レ山本内閣ノ總辭職 徳川公ハ大命降下 清
 浦内閣組織不能ノ来由ヲ説起 紀察レテ後伯カ餘年ヲ
 犠牲トシテ凡潮激動ノ會ニシテ内閣組織ノ重任ニ當リ
 國家ノ存存スルノ故カヲ敬レ四月十四日我カ時事新報ノ
 新内閣ノ弱兵ニ因ルニ記述^{後欄}レシテ(此記事ハ各新
 聞ニ詳載セラル)内閣ノ前途ニ危シモノ中途ニ竭蹶スルヲ
 能ク官僚民黨ノ間ヲ調停シ狂瀾ヲ挽キ功業炳耀スル
 ノ内閣トシテ期待調刺セリモ他ニ二十三日ノ國事報ニ我ノ
 時評欄ニ「野心家ノ口吻ト預レ大隈伯ハ日本ノ急進派
 ニシテ亦世界ノ大野心家ナリト言ヒ伯カ故伊藤公カ朝鮮
 統監ノ任ニ赴リテ送ルノ言ヲ回憶レシテ
 猶記ス我伊藤博文カ朝鮮統監ノ任ニ赴クヲ送リ
 之ニ向テ曰ワテ曰フ吾今君カ朝鮮統監ノ任ニ赴クヲ
 送ル更ニ親レ他日君カ支那統監ノ任ニ赴クヲ送ルニト

在東京日本公使館

MT

11212

00872

MT

11212

00871

ヲト彼レカ此言ヲ疑レハ即モ对我ノ意向ヲ知ルヘシ矣
ト言ヒ更ニ支那上下ヲ驚醒シテマフ

今ヤ日本内閣已ニ新然一新シテ我ニ對シテ我ニ對シテ
ラントレテ未タ定ラサルノ天ニ任セリ彼ノ大野心寡ハ固ト早
ク已ニ切カニ我ノ傍ニ向テ我ニ對シテ努力ヲ我ニ對シテ
猛者セヨ

ト結論セリ

以上各種ノ記事論調ニ徴セハ當國輿論思漸ハ我カ
新内閣ニ對シテ我ニ對シテ我ニ對シテ我ニ對シテ我ニ對シテ
幾多ノ内閣ヲ有ルニ信賴期待ノ念ヲ有スルモノアリ
察知スルニ足ル可ク何事モ参考近右一併及報告也

在東京日本新聞

MT

11212

00873

REEL No. 1-0060

附屬書類

號受3432

大正三年五月拾壹日接受

内務省外地第四九號

駐警長 第一課

大正三年五月九日

下週内務次官

松井外務次官殿

北系

臺灣ニ於ケル我施設ニ并
スル支那新聞記事ニ件

回答

四月一日政務密送第四〇號ヲ以テ此
同合相成支那新聞記事ニ關
スル件ニ付臺灣總督府へ取調方
及照會支那總領事寫ノ通リ回報到

案查條者ニテ所了知相成後

追テ別紙支那新聞用稿ニ付及
返付矣

MT 11212 00875

MT 11212 00874

敬言高橋第一六一五號

大正三年四月二十七日

臺灣總督府民政長官代理

滙理局長 高田元治郎

內務省地方局長殿

臺灣に於て我施設ニ関スル
於開港中、件四卷

本月十日付内務省外地事務四九號ヲ以テ
外務省向合ニ係ル事項取調矣左記
通りニ有之矣余即了知相成度右回答

ス

一 在支那山産公使ヨリ紹介セラル王瑞

芳ナルモノ未タ来臺ノ形跡無之隨テ

同人ニ於テ何等ノ不平ヲ洩スヘキ事

由ナキモノト被存矣然ルニ客年十二

月十七日午前五時四十分頃郵船會

社定期船備後丸基隆港口到着ノ

際同地水上警察官吏臨檢、為

同船出帆船客名簿ヲ調査スルニ

東京市青山原宿百七十番地、一二

判事莊瑛珂十人船客アリ支那人

思料シ同人ニ對シ身分及来基、

MT 11212 00877

MT 11212 00876

用向ヲ尋ヌルニ新渡戸博士及内地判事ヨリ
民政長官ニ紹介シタル名刺ヲ示シ本島司法
制度視察ノ旨ヲ以テセリ仍テ清國人上陸條例
ニ依ル上陸許可證請求ノ手續ヲ免除ス等
相當便宜ヲ與ヘタル次第ナリ而シテ同人ト
同答ニ備後大ノ基隆港ヨリ岸壁ニ向
テ航行中十分乃至十五分間ヲ要シタルニ
不過上陸モ一般船客ト異ナル處ナク同
日午前八時基隆發列車ニ乘込同九時
臺北ニ到着旅命吾妻ニ投寄セリ着北
後ニ青府法務部長代理森事官片
岡山秀太郎ヲ附シ可及的視察ノ便
宜ヲ與ヘ且ツ覆審法院長石井常

MT 11212 00878

英ハ民政長官代理トシテ為總務一
夕晚餐ノ饗應ヲ為セシカ同人亦亦
ニ審府ノ好意ヲ感謝シ十二月二十五日
基隆發長春丸ニ乘船福州北京ヲ
經テ本年二月末前記東京ノ寓所
ニ歸着シタル事實ナリ
前述ノ如ク王際芳ナル者來基ニ事
實ナリ一面新聞記事末項記載
某々兩博士ノ紹介書十封云々其
他同人々北京經由等ノ点ヨリ綜合
談新聞記事ヲ出所ヨリ推察スルニ
右莊環珂ヨリ出テシタルモニアラスヤト
思料セラシ候要スルニ所論、審否免

MT 11212 00879

三角基隆上陸の事項の全く事實
 を捏造するモノに比し人物の
 將來大に注意ヲ要スルキ義ト被存
 尚在塚珂著京後同人ヨリ書存三村
 秋吉官先送付越候禮状寫存
 赤考添付致置矣

終

MT

11212

00880

REEL No. 1-0060

0044

輝殿先般本由地障在中一方ケラサル由
原情ヲ辱レシ難有テ深附テ以テ障去
ル二十八日海陸無事着京江北百下
他事亦社念ヲ成ラ度ヲ早達亦礼
可也ト、交拜所は居ル難有取
際ト延引、彼亦、亦海峯形上テ
先不而敵亦行キ着京亦報上ト
如考亦産也 茲矣
三月十日

三石し平飯

在景阿お

内務省

MT 11212 00881

REEL No. 1-0060

0045

三ノチノ少附ノ分セニノ子ノ人ノ行ハシム

件名 切抜 新聞名 大正 年 月 日 發行

臺灣歸客之言

亡國之慘狀

吾國人聽者

(一) 亡國遺民無受高等教育之資格
次到台由北至南凡各地殆走遍無一高等教育
之校學「台入日已十九年矣」大學更無論矣「日
內地現有五完全大學尙愛不足思擴張最高之學校爲中學而
課程則日文語占大半視日內地之程度特低且多歌皇仁頌皇
恩之語高小初小純用日文主教讀日人同化言語殖民地之最
要訣也」實業教育只有講習所兩三處而

無專門「台灣有十一廳廳猶日本內地之縣縣必有甲種
實業學校數處則無一法政更無專校乃知愚民

之術必自無高等教育始

(二) 亡國遺民無爲官吏之資格
以萬計予購職員錄一冊檢查人名臺灣籍人七級以
上之官吏鮮有見者惟每應設參事數人日人又占
大半台人之鉅紳僅占少數欲籌費乃得參與事固
非官吏之列也

軍人更無臺灣一人故中國若遭瓜分慘禍恐萬劫
不復矣

(三) 亡國遺民有義務而少權利
將另表報告凡農會等費(占國家土地稅二十分之一)
均取於田賦故每廳農會一年常費多者
四五萬少亦二三萬元農會附設試驗場凡會
長場長技師技手均日本人而臺灣只有
助手數人而已「台有十餘廳不啻各農會農場爲日本
人之衣食住所」參觀上條無高等教育即知其用意台灣爲官
吏者均有官舍合家共居以安其心所食亦由公家支出「農會
亦然

(四) 愚民要術在引起懼心示以似是而非
之模範「此指麻業試驗場一台灣各地街市整潔比神戶大
坂尤宏遠「惟無電車」病院公園到處有之衛生首講水源(水
源地特供清潔水費一處需若干萬元)而台灣人可
食鴉片且特設專賣局年賺其一千餘萬

11212 00002

元俾其種日漸滅而不振最可痛者台灣總督府之林業試驗場也予以為必如東京農商務省立之林業試驗場各種林木誰知花卉亭台不一而足熊虎犀象各種動物無不具備儼然一公園花園耳殖民地之林業試驗場如是如是

(五)亡國遺民無獨立經營公司之資格
 臺灣實業權全操日人之手凡設公司臺灣人鮮能成立必與日人合辦且以日人出名方能受適當之保護車路墩製糖廠為美人所辦成績極良製法尤佳不予日人以參觀乃臺灣日糖會社合羣力落人下市場不二年歸併於臺灣會社矣美人尙如此臺灣人可不言而喻矣今僅有林本源製糖廠新興製糖廠為臺灣人所辦亦幾殆矣(聞輸運砂糖出口先日本人之會社後臺灣人之會社先創則市價之操縱在日本人手也)餘各實業臺灣人能染指者更鮮聞之「茶雖臺產土人有利而商費甚重」

六「殖民地當堅其迷信心並不改其習俗」
 臺灣婦女仍小足也男子仍垂髮也滿面

11212 09333

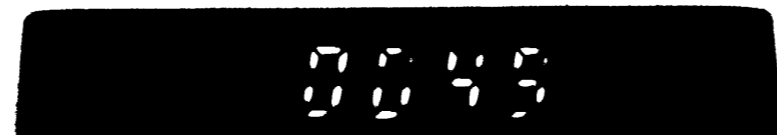
鴉片煙容「藥染黑齒之習南部尤多」觀音廟之進香必整其街道嘉善廳下觀音廟前街市用三合土做成正月十五之爆竹體躍且導以軍樂他如龍燈烟火皆不禁也

七「亡國遺民出入不能自由並旅客亦不能自由」
 予當未入臺時與日外部訂明先有電致臺可無用護照之約並因其兩博士之介紹書十餘封如此入臺當無憂困難詎抵基隆水上警察必索身分證明書及保人雖示以介紹函不能免也展轉水警署由伊代之竟保人具書蓋印始得登岸已費五小時之久自本人七時至坐八時火車往臺北矣予則至二時始能登車予為客往臺灣向如此聞台灣人出必得警官證明書及行政官允許書方可缺一不能故點者多先往日本後中國

大塚院推事 莊[○]瑞[○]阿[○] 大正三年十月三日
 支那[○]子[○]供[○]飯[○]、照[○]存[○]之[○]儀[○]、司[○]法[○]書[○]如[○]調[○]査[○]方
 ヲ[○]司[○]法[○]者[○]之[○]照[○]存[○]セ[○]ル[○]ハ[○]二[○]年[○]ノ[○]豫[○]定[○]ニ[○]由[○]ル[○]也
 節[○]立[○]ノ[○]儀[○]ナ[○]リ
 莊[○]氏[○]カ[○]公[○]法[○]ニ[○]至[○]ル[○]ニ[○]ト[○]リ[○]之[○]ヲ[○]司[○]法[○]書[○]ニ[○]外[○]務[○]者[○]
 多[○]ク[○]公[○]法[○]ノ[○]照[○]存[○]セ[○]ル[○]ニ[○]ト[○]シ

大正三年一月三日 江蘇省 汪[○]兆銘[○] 孫[○]
 親[○]調[○]査[○]氏[○]ニ[○]支[○]那[○]子[○]供[○]飯[○]ノ[○]儀[○]ニ[○]對[○]シ[○]テ[○]外[○]務[○]者[○]ニ[○]由[○]リ
 孫[○]者[○]、照[○]存[○]上[○]二[○]月[○]三日[○] 汪[○]氏[○]ノ[○]照[○]存[○]ノ[○]儀[○]ニ[○]對[○]シ[○]テ[○]
 汪[○]氏[○]ノ[○]照[○]存[○]ノ[○]儀[○]ニ[○]對[○]シ[○]テ[○]孫[○]氏[○]カ[○]公
 法[○]ニ[○]至[○]ル[○]ニ[○]ト[○]シ[○]テ[○]謝[○]意[○]ヲ[○]表[○]ス[○]ル[○]ニ[○]由[○]ル[○]也

MT 11212 00884



漢文3499號

大正三年五月拾五日接受

南領機密第三七號

大正三年五月五日
在南高

領事館事務代理分務書記生打田庄



外務大臣男爵加藤高明殿

最近日支兩國人ノ感觸ノ関シ

報告ニ付

白狼横行以來當地域内外ノ警戒甚
ダ嚴重シテ夜間ハ勿論查問トモ
要路巡邏ヲ夜間ハ勿論查問トモ
シテ夜間ハ通行人ノ對シテ一々
誰何監視ヲ行フ

ニ城門出入者及港甯鐵道上下客對
シテハ一々携帶行李ノ檢査ヲ行ヒ其甚
キニ至リテハ内外人ヲ問ハズ突如
ハ懐中ノ子ヲ入レテ物品ヲ搜査
シテハアリ右ハ當初密檢入ヲ
共ニ一方ハ阿片ノ密檢入ヲ
越前トシテ又ハ日本商店ノ樓上
泊ラズ通リ或ハ戸籍ヲ調ハシ
日本旅館ノ行ケバ其助ノ嫌疑ヲ
以日本旅館ノ出入スルヲ喜ハシ
リ又從來日本人ト親密ニ往來
モ缺點ハ全ク是ヲ絶ケテ未訪

MT

11212

60986

MT

11212

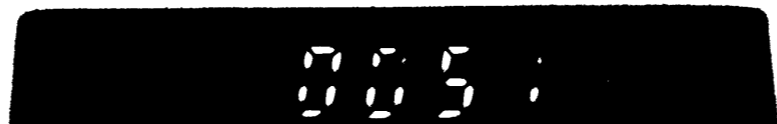
60885

トスルモアリ取調上甚ク困難ナルヲ以テ南
今外國人の内地に旅行スルモ一切武器
携帶セザルニ若シ已ムク得ザル場合ハ單
己己ノ獲身用トシテ決シテ支那人ニ交付
セシメサル掃放サレ度シ云々サモ外國人カ武
器ヲ携フテ内地ニ入りテ支那人ニ供給シ
ルモノアルカノ如キ向テ調ヲ用中又支那警察
ノ探訪ニシテ常ニ若シ未日支兩國人感
日甚ク面白カラスト慨々等ノ事候
係合スレハ近未支那官憲ハ日
對シテ嫌疑ノ念ヲ懷キ多ク注意シ
ラサルノ事歟ヲ否認スルハズ斯
ルニシテハ

MT 11212 00838

ハ帝國軍艦カ乱黨ニ武器ヲ供給スル
或ハ何海鳥ガ日本領事館ニ先遣
ト種々ノ瓦託ヲ耳スルヤ
三艦隊司令官カ馮都督
頃帝國軍艦カ上海北航
ヤ等ノ質問ヲ爲シ又近未支
判明ヤサル等ノ結果日支兩國
中ニ日本人人等ノ姓名及カ
アヤツル支那人等ノ取調上甚ク困難ナルヲ以テ南
々ト語リ又鎮江交涉取調上甚ク困難ナルヲ以テ南
近未安撫稱者内衆ヲ糾メテ事ヲ起
太郎ト改稱シ内衆ヲ糾メテ事ヲ起

MT 11212 00887



文ノ國文上甚シク概ハシキ次第ニ付当般ニ於
 テハ其等ノ凡説ニ付テハ絶偉ニシテ否認シ
 一方ニハ日本旅館宿泊者及内地旅行
 者ノ對シテ大ニ注意ヲ付テ其ノ下附
 ノ元氣明ノ者ニ之ヲ限リ勤メテ支那
 人ノ誤解ヲ除カシテ人止テ居美
 次亦之ヲ有
 之ヲ然段御参考迄報告申進
 具

本信軍医付先

云
使致具

MT

11212

00889

REEL No. 1-0060

0052

文書課長

大正三年五月拾四日發

34

海軍省

大正三年五月十五日

別紙

正管 政務局長

送第一二五號

大正三年五月拾五日發

在支那
山座公使

加藤大臣

台湾ニ於ケル我施設ニ関スル誹謗的

新聞記事ノ件

本件：閣本年三月十日附公外七二号貴信

外務省

ヲ以テ而報告ノ次第早速内務省ニ移牒シ

取調方依頼致置矣今因同省ヨリ台湾

監督府ノ提出ニ係ル調査書送致申付

右字及而送致間而査閱相成矣

依レテ談新聞記事ハ出官ノ紹介

花王環芳ヨリ非ラズ昨年十月以来ニ

豫定ニテ東京ニ帯在自法事務調査

中華ニテ

△あえり
今人の心得
院推事ニシテ

ニテ効ル事ヲナシタルモノトモ

MT 11212 00891

MT 11212 00890

電話第一五七八號
大正三年五月廿四日

次官
第...

文書課長

電報課長

大正三年五月廿四日

第一課

送第

辦

主管 政務局長

張

非

印

村上 加藤大造

第九号

五月三十日中央新報朝刊

八十九日送附支那内分新報

外務省

支那ハ

亡滅ニ瀕シテアリト又白アリト

ヲ報シテ攻撃シテ代案有キ事

康平根ニ付在リテ...

龍軍ニ對シテ...

存セリ...

牛乳...

政府...

MT

11212

00894

MT

11212

00893

電信課長 決

二六九 暗

大連 大正三年五月廿二日 午後 七、三〇
本省着
加藤外務大臣
北京
山座公使

大臣
次官
政務

通商

人事

會計

文書

男ヲ引連レ大總統ニ接見ノ為曹汝霖ヘ説明ニ置
ケリ
ニハ今日迄何等掲載ナレ尚為念五月廿一日遊澤
海領事館先貴電第一九号ニ因リ当地形團
加藤外務大臣

MT

11212

00836

REEL No. 1-0060

0050

附

秘受3910 號

大正三年五月廿九日接受

駐長沙日本領事館 第一課

大正三年五月十六日

在長沙

領事館事務代理池部政次

外務大臣男爵加藤高明殿

支那側注意本邦人三開スル件

本件ニ関シ別紙公領檢券ニ號寫通シ在支那

公使ニ報告致候間御査閲相成度此致申進候

敬具

在長沙日本領事館

MT 11212 00897

REEL No. 1-0060

0058

寫

支那

大正三年五月十六日

在長沙

領事館事務代理池部政次

在支那
特命全權公使山座圓次郎殿

支那側注意本邦人関之報告ノ件

過般貴館附武官齋藤少將當地視察
 游際湯都督ト會見虚心恒懷於話ヲ交
 タル際湯都督ハ齋藤少將ノ隔意ヲキ打ケ
 解ケ話シ討シ彼シモ亦腹藏ナク意見ヲ開陳
 シタル中當時當地在留日本人日下清癡
 愛藤古次郎西人ノ對スル革命党關係ノ
 嫌疑ヲ漏ラシ候ニ付右西人ニ付綿密調査ヲ
 遂ケ候処日下ハ以前一二回當地ニ來リタル
 有之最近ハ大正二年十月十九日到着三年
 五月五日當地出發歸朝致候同人ハ以前南
 昌ニ在住シテ革命党當時ハ李烈鈞ノ附隨
 シタルナル由ナルヲ以テ多少革命党關係
 アルモノト認メラルハ余儀ナキ次第ナルモ當地
 滞在中ハ別ニ舉動不審ノ廉モ無之唯預
 金引出ノ為メ預金主不明ナルモ或ハ本邦亡命者ノ人
 三ト認メラル支那客棧ニ滞在シ傍ラ中文那派

MT 11212 00899

MT 11212 00898

遣隊ヨリ若干ノ通信料ヲ受ケ状報ニ從事シ
 タル事アルモ本月初旬至リ重ナル要務終了
 シタル由ニ任意帰國シタル者有之又愛藤
 古次郎ナル者ハ當館在留民名簿中其氏
 名ノ登録ナキノミナラス似寄リノ姓名モ無之疾
 ニ付一時ハ多分姓名ヲ詐稱シ居ル者ナラント
 思考ニ極力探查致信得共終ニ同人ラシキモ
 發見セズ恐ラクハ支那人ノ偽名ナルカ支那探
 偵ノ誤謬ナルベシト被信疾事情前陳ノ通り
 湯都督ノ疑念ハ全然謂ハシナキ者ニ付教日
 前親シク會見、上十分得心ナル様上記ノ事
 情詳細説明致置信ニ付支シテ疑念消散
 シタル筈有之又都督府ニ於テモ一々探偵報
 告ヲ信用スルニアラサルモ齋藤少将ノ懇請ニ
 甘ハ腹藏ナク披露シタル儀ナレバ此ノ上追究ス
 下ナカラン様相語リ信尚ホ念、為メハ官界ハ愛
 藤古次郎ノ人相居所年齢等探査上及
 考トスルニ足ル廉差シ都督府側ニ於テ承知
 居レハ内密通知アリ度旨申込星信得共最
 早一週間ヲ経過シタル今日至リテ未ダ何等
 回報ナキヲ以テ見レバ右愛藤某ノ関スルハ全
 ク跡方ナキ虚説ナリト思考セラル候
 右御参考迄具報中進信教具

在長沙日本領事館

本信寫送附先 外務大臣

MT

11212

00901

MT

11212

00900